

Mr. HORI-NY で活躍した松江出身の写真家・堀市郎写真展

——小泉八雲が応援した写真家——

【第三期】

堀市郎ほりいちろうは、明治12年(1879)、現在の松江市外中原町に松江画工・堀櫨山れきざんの長男として生まれ、松江市尋常小学校卒業した。市郎をアメリカへと導いた人物に小泉八雲こいずみやくも(ラフカディオ・ハーン)がいる。市郎は、八雲が巔ひといきにとのまちした殿町の写真師・森田禮造れいぞうの許で修行し、八雲の美保関みほのせき旅行にも同行した。旅行の5か月後、市郎は上京し、東京で孤独な生活をしていた八雲宅を度々訪れた。アメリカでジャーナリストとして活躍した八雲との交流は、市郎にとり、その国情を知り、本場での写真研究を目指す動機づけとなった。

1901年(明治34)、22歳の市郎は単身渡米する。ニューヨークで成功し、「写真の開拓者」と言われた。動きのある写真で評価され、「ブロードウェイで上演される役者のポスターが、ミスター堀のものでなかったら一流でない」とすら言われた。また、無声映画時代の国際的ハリウッドスター早川雪洲せつしゅうや、蝶々夫人ちょうちょうで有名な三浦環たまき、バレリーナのアンナ・パブロアやモダンダンスの祖イザドラ・ダンカンなどの役者、日露戦争でバルチック艦隊を破った東郷平八郎などの写真を撮影した。

市郎が住んだニューヨークのアパートの隣室に、野口英世のぐちひでよ夫妻が住み、英世が患者の脳から梅毒スピロヘータを発見した際には、深夜にもかかわらず市郎の部屋へ真っ先に知らせに訪れた。市郎は英世を理解する親友で、英世に将棋や油絵を教えた。1969年没。



堀市郎肖像写真
(佐々木寛子氏提供)

【堀市郎撮影 展示写真および解説】



①日本テニス界のパイオニア
世界ランク4位の
清水 善造



②日本が誇る名テニスプレーヤー
世界ランク7位の
原田 武一

【裏面へつづく】

① 日本テニス界のパイオニア 世界ランク4位の 清水 善造

世界ランキング4位の記録(1921年)を持つ、日本テニス界のパイオニア。善造は、1920年、ウィンブルドン選手権大会オールカマーズ決勝(現在の準決勝)で、レシーブ直後転倒した世界ナンバーワンのビル・チルデン(米国)が起き上がれるよう、ゆっくりとしたやわらかな球を送ったという。戦前の高校倫理の教科書に「清水善造対チルデンの美談」として載った。翌年、NY郊外フォレストヒルズにおけるデビスカップ杯出場のため、善造がNYを訪れた際、市郎が撮影した貴重な一枚。1891年生-1977年没。

② 日本が誇る名テニスプレーヤー 世界ランク7位の 原田武一

岡山県倉敷市酒津の名望家の長男として育ち、慶應義塾進学後、庭球部のエースとして名をはせた。1923年、第2回全日本選手権大会男子シングルスで優勝。その後、米国ハーバード大学に留学し、世界ナンバーワンのビル・チルデンら強豪と互角に渡り合い、全米3位、世界7位(1926年)のランキングを獲得した、戦前日本が誇った名選手。当時高価で珍しかったオートバイを乗り回し、ホテルで芸者を揚げ、愛人との心中未遂事件を起こすなど性格は豪放磊落、天衣無縫だった。晩年は、選手を正統的な型にはめようとする日本テニス界の傾向を批判し、自由で個性を生かした「ノーフォーム、ノーグリップ」のテニススタイルを提唱した。1899年生-1978年没。ニューヨークにて市郎撮影。[参考:小林公子『フォレストヒルズを翔けた男』]



③ 女性



④ 女性



⑤ 子ども

(①~⑤ 佐野好作氏蔵)

③ 女性

市郎の写真の特徴は、ポートレートの中に、邪魔者が一切入らず、非常にきれいな点にある。無駄がなく、画面内の空気がきれいで、背景がすっきりしている。市郎の撮影技術と修正技巧が、撮影依頼者を満足させた。

④ 女性

1920年代、市郎は米国で最も洗練された写真焼付を行う人物として知られ、暗室技術の模範となった。米国の写真会社は試験焼付のために新しい印画紙のサンプルを送っていた。ニューヨークにて市郎撮影。

⑤ 子ども

左足を前にして組み、右手を頭の後ろにまわした茶目っ気のあるポーズが、男の子のいたづらっぽい表情を強調させる。この写真のように、瞳の中に光を宿らせ人物をいきいきと写し出すのは、市郎の写真の特徴である。人物の詳細については不詳であるが、服装から上流階級の子に生まれた子どもと思われる。ニューヨークにて市郎撮影。

[参考出陳] ファッション雑誌『VOGUE (ヴォーグ)』(フランス版、1922年3月号)

本号には、市郎が撮影した足先の靴の写真だけでなく女優メアリー・ピックフォード写真も掲載している。